

令和5年度(6年度実施)各学部・研究科自己点検評価結果集計表(毎年実施分)

分析項目		検証		教育学部・教育学研究科	地域科学部・地域科学研究科	医学系研究科・医学部		工学部・工学研究科	応用生物科学部	社会システム経営学環	自然科学技術研究科	共同獣医学研究科	連合農学研究科	連合創薬医療情報研究科	全学共通教育
番号	内容	番号	内容			医学科・医療者教育学専攻・医科学専攻	看護学科・看護学専攻								
2-3-1	学部研究科において、内部質保証の取組(PDCA-Cycle)が行われていること	検証1	情報を収集し分析した事例はあるか(C, A)？ ○:ある ×:ない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2-3-2		検証2	実施計画を立てた事例はあるか(P)？ ○:ある ×:ない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2-3-3		検証3	改善につながった事例があるか(D)？ ○:ある ×:ない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2-5-4	授業の内容及び方法の改善を図るためのファカルティ・ディベロップメント(FD)を組織的に実施していること	検証1	FD等を実施しているか？ ○:実施した ×:実施していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		検証2	FD等の実施が授業内容及び方法の改善につながった事例があるか？ ○:事例がある -:事例がない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○
5-2-2	学生の受入が適切に行われていること	検証1	入学者の基礎学力が昨年度に比較して同等あるいは向上しているか？ 学部等の場合、基礎学力には教学IR室が提供する大学入学共通テストの得点率も参考にすること。(本検証は、博士後期課程及び博士課程を除く。) ○:点検した ×:点検していない	○	○	○	○	○	○	○	○				
		検証2	検証に基づいて入学者選抜の変更を検討(実施も含む)している事例があるか？ ○事例がある -:事例がない	○	-	○	-	○	○	○	○				
5-3-1	実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないこと	検証1	学部等では100%≦実入学者数／入学定員≦110%(105%)となっているか？ ○:なっている ×:なっていない	○	○	○	○	○	○	○					
		検証2	研究科では70%≦実入学者数／入学定員≦130% となっているか？ ○:なっている ×:なっていない	○	×	○	○	○			×	○	×	○	
6-3-2	授業科目の内容及、授与する学位に相応しい水準となっていること	検証1	シラバスを点検したか？ ○:点検した ×:点検していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		検証2	シラバスに「到達すべき目標」が箇条書きで記載されている授業科目の割合(記載率)は？ 記載率(100%)＝記載されている科目の総数／授業科目の総数	92%	100%	100%	97%	94.7%	94.1%	100%	90%	100%	100%	96%	99.8%
		検証3	記載率が低いと判断する場合は、記載率を高める取組を実施し、改善が図られたか？ ○:改善されている △:取り組んでいるが改善にはつながっていない ×:取り組んでいない -:記載率は十分に高いと判断している	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
6-6-3	成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること	検証1	シラバスに記載されている「到達すべき目標」に照らして成績評価を行うことを組織的に確認しているか？ ○:確認している ×:確認していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		検証2	成績評価を厳格にする取組を実施しているか？ ○:実施している ×:実施していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6-8-1	標準修業年限内の卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	検証1 検証2	学部・研究科の標準修業年限内の卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率、資格取得等を把握し、適正な状況にあることを確認しているか？ ○:適正な状況である ×:適正な状況ではない	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
6-8-2	就職(就職希望者に対する就職者の割合)及び進学の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	検証1 検証2	本学統一の書式または独自の書式によって就職状況を分析したか？ ○:実施した ×:実施していない	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
		検証3	分析によって進路状況等が大学等の目的及び学位授与方針に則して妥当なものであること等を確認しているか？ ○:確認している ×:確認していない	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
6-8-3	卒業(修了)時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	検証1	卒業(修了)時の学生から意見聴取を行っているか？ ○:行っている ×:行っていない	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
		検証2	学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査等、意見聴取を行い、学修成果があがっていることが確認できたか？ ○:確認している ×:確認していない	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	

令和5年度(6年度実施)各学部・研究科自己点検評価結果集計表(毎年実施分)

<主な取り組み事例>

番号	内容	部局名	取り組み事例
2－3－1 2－3－2 2－3－3	学部研究科において、内部質保証の取組(PDCA-Cycle)が行われていること	教育学部	教員就職率は上昇傾向にあるが目標値に達していないので、各学年の特定の時期に「進路希望調査」を実施し、教員志望割合や経年変化等を分析している。その結果を関係委員会で示し、主に指導教員から教職の魅力伝達やきめ細やかな相談を行う体制としている。データの蓄積によりどの時期に教員志望率が低下しやすい傾向にあるかが明らかになってきたので、その時期に合わせて現職教員等による教職の魅力語る場を設定することが可能となった。
		地域科学部	高等学校進路指導者担当者との懇談会をオンラインにて開催した。懇談会には県内の高等学校7校、および愛知県の高 等 学 校 3 校 の 進 路 指導担当者が参加した。学部の概要やカリキュラム(履修系統・国際教養プログラムなど)、就職状況について説明し、意見交換を行った。
		工学部	リフレクションペーパーを通して、各教員がそれぞれの授業において工夫・配慮・考慮などの改善に取り組んでいる。また、他の教員の取り組みの内容を自身の改善に役立てられるよう、各教員のリフレクションペーパーを教員間で共有している。
		社会システム経営学環	学生の個別面談を前学期は4月、後学期は9月に行い、ポートフォリオを用いた学修指導を実施し、それぞれの結果を教務・入試専門委員会及び教授会で報告し教員間で共有した。
2－5－4	授業の内容及び方法の改善を図るためのファカルティ・ディベロップメント(FD)を組織的に実施していること	医学部医学科	臨床実習に関するFD 第1回「選択臨床実習FD」(令和5年10月2日)を開催した。参加者:76名(学外:51名、学内:25名)。学内診療科及び学外の実習先医療機関から指導医が参加し、今後の臨床実習の在り方について情報を共有し、診療現場での学生評価の方法、ポートフォリオの活用、アンプロフェッショナルな振る舞いをした学生への対応を意見交換し、選択臨床実習の授業内容や指導方法の改善を図った。
		共同獣医学研究科	①R4.5.25「研究科共通科目(生物情報解析学特論)終了後の学生からのアンケート結果について」20人、②R4.7.27「研究科共通科目(アカデミック・イングリッシュ)の改善に向けて」19人、③R5.2.22「本研究科入試における受験者のTOEFLスコアについて」16人、④R5.3.22「カリキュラムの見直しに向けたアンケート結果について」18人、「研究科共通科目(生物情報解析学特論)の改善に向けて」18人 を開催した。プレゼンテーション技能を向上させる内容の授業に対する要望が大きかったことが明らかとなったので、「基盤特別講義」「基盤特別演習」「スペシャリスト特別講義」「スペシャリスト特別演習」において、プレゼンテーション技能の強化を意識した内容を盛り込むこととした。
5－2－2 5－3－1	学生の受入が適切に行われていること 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないこと	医学部医学科	令和5年度入試から後期日程の学生募集を廃止した結果、令和5年度入学者で休学、退学を申し出る事案がなくなった。
		応用生物科学部	共同獣医学科においてIRデータを分析し、入学後の学力向上に論理的思考が要因となることを把握できたので、前期日程における個別学力検査の科目を英語から数学へ変更した。
		社会システム経営学環	学校推薦型選抜Ⅱについて、獲得したい学生像に照らし合わせ、「商業・工業・農業等の実業に関する学科」の募集枠を令和8年度入試から実施する。
6－3－2	授業科目の内容及、授与する学位に相応しい水準となっていること	地域科学部・地域科学研究科	「岐阜大学成績評価基準」「岐阜大学シラバス作成ガイドライン」等に基づきシラバスが記入されていることについて、関係委員会で確認を行い、不備のあるものについては当該教員へ加筆修正を求めた。
		応用生物科学部	年度末に全教員に対するアンケートにより「シラバス・成績評価に関する自己点検評価」を行っており、令和5年度は94.6%の教員がシラバスの記載どおりに授業を実施したと回答、一方成績評価は、ほとんどの教員(98.9%)がシラバス記載どおりに実施できたと回答した。次年度の改善計画についても学生の理解を深める具体的な工夫・改善点が多く寄せられた。
		社会システム経営学環	提出後のシラバスを教務・入試専門委員会ワーキングにおいて総点検し、学生に適切に伝えるべき内容が記載されているかどうかを確認した。特にシラバスに、ディプロマポリシーである6つの専門的能力の獲得との関連が示されていること、「到達すべき目標」が箇条書きで明記され、その項目ごとに評価の方法が示されていることを徹底して、学生に意図が伝わるように配慮した。学生に対し授業評価アンケートを実施し、その結果を教務・入試専門委員会及び教授会にて各担当教員に共有した。その上で、授業評価アンケートの内容を受けて、各授業の改善した点を教務・入試専門委員会及び教授会にて報告・共有した。
6－6－3	成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること	地域科学部	学修成果の可視化を検討した結果、卒業する4年生全員について、指導教員および卒業論文副査が「学修成果評価書」を提出し、本学部のディプロマ・ポリシーに記載された能力の項目ごとに達成度を 4 段階で評価した。
		社会システム経営学環	次年度シラバスの点検及びシラバス作成に関するFDにおいて、「到達すべき目標」と成績評価の整合性の必要性を確認して、改善すべきと思われる点が修正された。
6－8－1	標準修業年限内の卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	連合農学研究科	学生に半年ごとに中間発表を課し、指導チームおよび代議員による研究の進捗状況を確認する仕組みを構築している。
6－8－2	就職(就職希望者に対する就職者の割合)及び進学の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	教育学部	卒業生の教員就職率について、学校種別、県別及び講座別に分析し、教授会において説明を行っている。進路希望調査結果を指導教員にフィードバックしきめ細やかな進路指導を行うとともに、学年全体の傾向を教授会において説明し、進路指導の方針を伝えている。
		応用生物科学部	応用生命科学課程及び生産環境科学課程の2課程は、専門性進路率が過去5年すべてで9割に達している。共同獣医学科では、小動物診療(動物病院)、産業動物臨床(農業共済など)、地方公務員、国家公務員、展示動物(動物園、水族館)、民間企業、団体職員(法人等)の区分に分け、就職先を分析している。
6－8－3	卒業(修了)時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	教育学部	学部生については、入学時に学修録(カリキュラムマップの時系列に沿って、自らの学習記録を定期的に振り返り、教師としての力量を自律的に身につけるための記録ファイル)を配付しており、4年間の学修の記録、レポートを積み重ねさせ、4年次の教職実践演習において自己分析させている。また、卒業時のアンケートにおいても達成度、満足度を聴取している。
		医学部医学科	医学部医学科では、卒業式当日に卒業時アンケートを実施し回答を得ている。結果については、医学教育IR室にて分析を行い、今後の医学教育の改善に利用している。